

Stage5

What's that Noise?

あれは何の音？

作・クロエ・ローデス

絵・ジョン・スチュアート

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話しましょう。

- ・表紙と裏表紙を見て、この本に書かれていそうなことをお子さんと話しましょう。
- ・写真を何点か、お子さんと見てください。こんな質問をしてみましょう：
 - ・とても大きな雑音を思いつくかな。
 - ・とても静かな雑音を思いつくかな。
- ・3 ページにある注意の必要な単語「デシベル(decibels)」を見てください。お子さんがその単語を読むのを手伝ってあげて、単語の意味について話しましょう。音以外のものはどのように測定されるのか話しましょう。

<読んでいるときに>

自分のスピードで読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

お子さんが単語を読むのにつかえたときは、次のようにうながしてあげてもいいでしょう：

- ・ことばを声にだしていってごらん。
- ・その文章のはじめにもどって、もう一度読んでみよう。
- ・絵を見るとわかるよ。

<ひっかかることば>

ここにあるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

people 人びと

their 彼らの

called ～と呼ばれている

noise 騒音

vibration 振動

decibels デシベル

measured 測定した

musician ミュージシャン

[p. 1]

あれは何の音？

目次

うるさい出発	p.2
シーッ！ ぼく睡眠中	p.4
音を感じる	p.6
コップを割る	p.8
離陸！	p.10
海中	p.12
最大のビッグバン	p.14

作・クロエ・ローデス

絵・ジョン・スチュアート

[p. 2]

うるさい出発

[p. 3]

<騒音計>

私たちはみんな、音をたてます。

私たちは生まれるとすぐに、音をたてはじめます。

音はデシベルという単位で測定されます。あかちゃんの泣き声は、騒音計で 60 デシベルです。

「ぼくの目覚まし時計と同じくらいのうるささだ！」

[p. 4]

シーツ！ ぼく睡眠中

睡眠中に音をたてる人もいます。

<ゲーゲーゲー>

[p. 5]

「ドリルと同じくらいのうるささだ！」

いびきは騒音計で 70 デシベルになることがあります。

[p. 6]

音を感じる

聴覚障害者は音を感じることができます。

エヴリン・グレニーは、耳の間こえないミュージシャンです。

[p. 7]

「エヴリンの音楽は騒音計で 95 デシベルだよ！」

音はものを振動させます。

エヴリン・グレニーは演奏のために振動を利用します。

[p. 8]

コップを割る

人間の声は振動をおこします。

声でコップを割ることができる歌手もいます。

[p. 9]

「大きな音は、コップを振動させて割っちゃうんだ！」

[p. 10]

離陸！

宇宙へ飛び立つロケットは、すごい騒音をだします。エンジンがものすごくうるさい音をだすので、

耳を痛めます。

[p. 11]

「警告！ 140 デシベルをこえる騒音は聴覚に損傷をあたえるんだよ」

[p. 12]

海中

いちばん大きな音をだす動物は、シロナガスクジラです。クジラは海中で長距離に届く音をだします。

[p. 13]

「シロナガスクジラはいちばん大きな動物で、いちばん大きな音をだす動物だよ！」

シロナガスクジラはとても離れたところからおたがいの声を聞くことができます。

[p. 14]

最大のビッグバン(爆発音)

人が聞いたこれまででいちばん大きな音は、火山から発生しました。その火山はクラカトアといいました(読み方:クラカトア)。

[p. 15]

「騒音計で 190 デシベルだよ！」

爆発音があまりにも大きかったので、よその国の人たちにもその音が聞こえました。

[p. 16]

音をだす

10 呼吸

50 話し声

60 あかちゃんの泣き声

70 大きないびき

90 ドラムをたたく音

100 大きな歌声

120 かみなり

150 ロケットの離陸

180 シロナガスクジラの呼び声

190 クラカトアの噴火

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・騒音についてどんなことがわかったかな？
- ・どの動物がいちばん大きな音をだすかおぼえてるかな？
- ・この本はおもしろかった？ それはどうして？

この本をまた読んでみようとお子さんにすすめてください。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

この本のことをくりかえし話題にしましょう。大きな音をたてるものをほかになにか知っていますか？

1本の糸でふたつのプラスチックのコップの底をつないだ、かんたんな「電話」を作ってもいいですね。声がどのように糸を伝わるのか確かめてみましょう。